

# 文芸

## 俳句

秋刀魚焼く表は未だ海の色 池田 逸子  
 農道の一直線や大桔野 伊藤 敬子  
 房総の水仙口ロード木道 今関満喜子  
 蒔すて新圃拓げ日向ぼこ 魚地 照子  
 木の実降る音のみ残し谷れにけり 江森 悦子  
 袖子湯とて一番風呂を初められ 大谷 武彦  
 冬野道流れ灌頂石一つ 川島 孝夫  
 熱燗と独りしづかに飲みにけり 向後 寛  
 風二十日抜けぬ歳か十二月 越川 福子  
 黄昏の余生耕やし落葉焚き 小松 藤男  
 初時雨想ひ出揃ふティータイム 佐瀬 輝夫  
 落葉掃き風に言ひわけもらひけり 宍倉 道子  
 年重ね行つたり来たり十二月 鈴木とし子

## 短歌

水仙やひとと木ねて項垂れる 玉虫 栗扇  
 ご無沙汰の友に宅配師走かな 土屋美枝子  
 アルバイト頑む張り紙十二月 土屋 義昭  
 マスクして愁いと隠すひとりもの 戸村 静華  
 刈り込みの鉄の音や冬近し 早川 勇  
 庭隅に咲きし山茶花色を添へ 枯木となりし庭を和ます 鈴木まさ子  
 学舎と去りて久しきクラス会 互に旧姓で友の名と呼ぶ 押尾 輝子  
 手抜きせず料理を作りときめきて 招きし友の訪ふを待たぬつ 田崎 尚美  
 掃く後へあとへと枝の葉を散らし 冬の風小僧はいたづらが好き 佐瀬 初音  
 空とゆくバラグライダー見てぬると 知りたる人の降りて来ませり 平山 芳子  
 指先の擦れてかそかな音たてぬ 冷たき冬にはやも入りゆく 島田ますみ  
 大寒の午前四時なり新圃を 配りしバイク音の遠退く 齊藤つね子  
 人知れず生命育む年の瀬を 小さく咲けるかたばみの花 土屋 好  
 梁譜なく奏でる詞べの雨だれに 風の伴奏圖に賑ふ 伊藤 定男  
 ハウス内赤黄トマト鈴なりに 老いの一徹祝ふがごとし 越川 義則

## こうほう博物館 22

### 古墳時代のアクセサリー

古墳を発掘すると、人を埋葬した穴から、多くの宝飾品が出土することがあります。勾玉や切子玉・粟玉・ガラス玉など、主に首飾りとしたものと思われ、埋葬した人が着けていたもので、一緒に埋められた副葬品です。

これはどこが産地か不明です。城山遺跡の南隣りの夏台遺跡では、一号墓から、勾玉四点と切子玉三点が出土しました。勾玉はオレンジ色をしたメノウという宝石で、茨城産と思われるです。切子玉は無色透明の水晶と呼ばれる宝石で、山梨産と考えられます。ともに硬い宝石を加工しているため、専門の玉造工人が製作したと考えられています。

このように古墳から発見されたアクセサリーは、さまざまな材料が使われ、その産地も色々などころのものがあります。それらを組み合わせてネックレスなどを造り、当時の有力者の胸元を、赤や青色などで飾っていたことでしょう。



▲出土した副葬品